

諸 人 御 返 事

弘安元年三月二一日 五七歳

三月十九日の和風つかい並びに飛鳥ふみ、同じく二十一日戌いぬの時到来す。日蓮一生の間の祈請きしゅう
並びに所願たちま忽つかいちに成就せしむるか。将又五五百歳はたまたの伝記あたか宛ふけいも符契の如し。所詮真言・
禅宗等の謗法の諸人等を召し合はせ是非を決せしめば、日本国一同に日蓮が弟子檀那と
なり、我が弟子等、出家は主上・上皇の師となり、在家は左右の臣下に列ならん。将又
一閻浮提いちえん ぶ だい皆此の法門を仰がん。幸甚幸甚。こうじん

弘安元年三月廿一日戌時

日 蓮 花 押

諸 人 御 返 事